

令和4年度 一般入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 53

千葉県立松戸馬橋高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

本校において、高校生活に積極的に取り組む意志があり、人物が優れ、かつ次のア、イ又はウのいずれかに該当する生徒。

ア 学習成績が優れていること。又は秀でた教科があること。

イ 特別活動において実績を有し、入学後も引き続き取り組む意志があること。

ウ 部活動で優れた実績又は資質を有し、入学後も引き続き取り組む意志があること。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 学校設定検査	学校が定めた次の検査の結果
ア 面接	受検者5名程度（受検者数による）・評価者3名の集団面接 検査時間：1グループ12分程度
イ 自己表現	次の（ア）、（イ）のいずれかを、出願時に志願者が選択 （ア） 文章による自己表現 実施形態：検査当日指示された題について文章により表現する。 字数：600字程度 検査時間：50分 評価者は2名とする。 （イ） 実技による自己表現 実施形態：基本技能を中心とした実技により表現する。 次の実技のうち1つを選択 野球（男）・サッカー（男）・陸上（男女）・柔道（男女）・バスケットボール（男女）・バレーボール（男女）・バドミントン（男女）・吹奏楽（男女）・合唱（男女） 検査時間：35分（更衣、整列等の時間を含めて50分）各種目1～25名に対し、評価者は2名とする。

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。 合計得点が100点未満の場合は、審議の対象とする。
イ 個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書 [160点満点]

アの数値に、エについて加点（上限25点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値に $K = 1$ を乗じた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3年間の欠席日数の合計が30日以上の場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が1つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、 部活動の記録及び 特記事項	学級活動、生徒会活動、部活動等の記載内容について評価する。 特に積極的に取り組んだと認められる記述については加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 学校設定検査 [145点満点]

①面接 [45点満点]

3名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを5点、bを3点、cを1点とし、3名の評価者の評価（各15点満点）を合計し、得点化する。評価cが1つでもある場合は審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志願理由・意欲・態度	志願の動機が明確であり、高校生活に意欲的に取り組もうとしている。基本的な面接作法が身につけている。
イ 服装・身だしなみ	頭髪・服装などの身だしなみが整えられている。
ウ 質問に対する応答	質問を正しくとらえて、適切に回答することができる。

②自己表現 [100点満点]

次のア、イについて、それぞれ2名の評価者が、3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

評価項目（ア）と（イ）はaを15点、bを7点、cを2点、（ウ）はaを20点、bを10点、cを3点とし、2名の評価者の評価（各50点満点）を合計し、得点化する。

ア 文章による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 内容の理解と 文章表現	与えられたテーマに対して内容が適切である。 誤字や脱字がない。文法が正しく用いられている。
(イ) 字数・全体構成	指定された字数に対して過不足がない。 全体としてのまとまりがある。
(ウ) 意欲・態度	前向きな姿勢で物事に取り組もうとする意欲が表現されている。

イ 実技による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 検査内容の理解と対応	検査内容を的確に理解し、趣旨にそった対応ができています。
(イ) 能力・適性	当該種目に対する適性があり、基本的技能を身に付けています。
(ウ) 意欲・態度	当該種目に積極的・意欲的に取り組んでいます。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の得点」、「調査書の得点」及び「学校設定検査（面接・自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者とする。

<総得点の満点の内訳>

学力検査 の得点	調査書の得点		学校設定検査の得点		総得点
	評定 (K=1)	加点	面接	自己表現	
500点	135点	25点	45点	100点	805点

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。

イ 入学許可候補者とした者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による入学許可候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

5 その他

過年度卒業者については、学校設定検査終了後、別途個人面談を行う。

令和4年度 海外帰国生徒の特別入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 53

千葉県立松戸馬橋高等学校 全日制の課程 普通科

1 選抜資料

(1) 学力検査	3教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者1名・評価者3名の個人面接 検査時間：1名10分
(4) 作文	実施形態：検査当日指示された題について日本語により検査する 字数：600字程度 検査時間：50分
(5) 海外在住状況 説明書	実施要項（様式6）により、海外在住期間及びその前後の 教育歴等を説明したもの

2 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔300点満点〕

評価項目	評価基準
ア 3教科の得点合計	3教科（各教科100点満点）の合計300点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書〔160点満点〕

アの数値に、エについて加点（上限25点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値で評価する。評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3年間の欠席日数の合計が30日以上の場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が一つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、 部活動の記録及び 特記事項	学級活動、生徒会活動、部活動等の記載内容について評価する。 特に積極的に取り組んだと認められる記述については加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する 際の参考とする。

(3) 面接〔45点満点〕

3名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。aを5点、bを3点、cを1点とし、3名の評価者の評価（各15点満点）を合計し、得点化する。

評価cが1つでもある場合は審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志願理由・意欲・態度	志願の動機が明確であり、高校生活に意欲的に取り組もうとしている。基本的な面接作法が身についている。
イ 服装・身だしなみ	頭髪・服装などの身だしなみが整えられている。
ウ 質問に対する応答	質問を正しくとらえて、適切に回答することができる。

(4) 作文〔100点満点〕

それぞれ2名の評価者が、3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

評価項目アとイはaを15点、bを7点、cを2点、ウはaを20点、bを10点、cを3点とし、2名の評価者の評価（各50点満点）を合計し、得点化する。

評価項目	評価基準
ア 内容の理解と文章表現	与えられたテーマに対して内容が適切である。 誤字や脱字がない。文法が正しく用いられている。
イ 字数・全体構成	指定された字数に対して過不足がない。 全体としてのまとまりがある。
ウ 意欲・態度	前向きな姿勢で物事に取り組もうとする意欲が表現されている。

(5) 海外在住状況説明書

評価項目	評価基準
記載内容	志願資格があることを確認する。

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

中学校の校長から送付された調査書、海外在住状況説明書等の書類の審査並びに学力検査の成績、面接及び作文の結果を資料とし、総合的に判定して選抜を行う。

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。

令和4年度 第2次募集 選抜・評価方法

学校番号 53

千葉県立松戸馬橋高等学校 全日制の課程 普通科

1 選抜資料

(1) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(2) 面接	受検者1名・評価者3名の個人面接 検査時間：1名10分
(3) 作文	実施形態：検査当日指示された題について日本語により検査する 字数：600字程度 検査時間：50分

2 評価項目及び評価基準

(1) 調査書 [160点満点]

アの数値に、エについて加点（上限25点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値に $K = 1$ を乗じた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3年間の欠席日数の合計が30日以上の場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が1つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、 部活動の記録及び 特記事項	学級活動、生徒会活動、部活動等の記載内容について評価する。 特に積極的に取り組んだと認められる記述については加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(2) 面接 [45点満点]

3名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。aを5点、bを3点、cを1点とし、3名の評価者の評価（各15点満点）を合計し、得点化する。

評価cが1つでもある場合は審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志願理由・意欲・態度	志願の動機が明確であり、高校生活に意欲的に取り組もうとしている。基本的な面接作法が身についている。
イ 服装・身だしなみ	頭髪・服装などの身だしなみが整えられている。
ウ 質問に対する応答	質問を正しくとらえて、適切に回答することができる。

(3) 作文 [100点満点]

それぞれ2名の評価者が、3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

評価項目アとイはaを15点、bを7点、cを2点、ウはaを20点、bを10点、cを3点とし、2名の評価者の評価（各50点満点）を合計し、得点化する。

評価項目	評価基準
ア 内容の理解と文章表現	与えられたテーマに対して内容が適切である。 誤字や脱字がない。文法が正しく用いられている。
イ 字数・全体構成	指定された字数に対して過不足がない。 全体としてのまとまりがある。
ウ 意欲・態度	前向きな姿勢で物事に取り組もうとする意欲が表現されている。

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

「調査書の得点」、「面接の得点」及び「作文の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、第2次募集の募集人員までを入学許可候補者とする。

<総得点の満点の内訳>

調査書の得点		面接	作文	総得点
評定 (K=1)	加点			
135点	25点	45点	100点	305点

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

イ 入学許可候補者とした者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による入学許可候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

4 その他

過年度卒業者については、面接検査終了後、別途個人面談を行う。